



秋田県立支援学校天王みどり学園 研究だより NO.8  
平成28年10月7日 発行

# ippo(いっぽ)

【研究主題】 キャリア教育の視点で小・中・高を貫く教育課程の編成  
～学部間をつなぐ仕組みを活かした取組～

第3回目となるワーキンググループ授業参観を9月21日に実施しました。参加者は、ウェルビューいずみ障害者就業・生活支援センター主任就業支援員の牧野真悟氏、秋田障害者職業センターの石井正博氏です。お二人には、授業後のワーキンググループ会議にも出席していただき、職業科の学習内容や授業づくりについて、感想や特別支援学校卒業生の事例の紹介、それを基にした授業づくりへのアドバイスをいただきました。それらのなかからいくつか紹介します。

## ～卒業後の悩み“あるある”～

- ・「実習生の際は優しかったのに。就職したらレベルの高いことが求められてしまう」  
ポイント：働いた対価としての給料が発生する  
・・・給料に見合う働きをしているのか（同じ仕事をする同僚の見方も変わる）
- ・「挨拶しても相手が返してくれない」  
ポイント：学校と社会の違い  
・・・必ず挨拶を返してくれるのは学校くらい
- ・「少しでも怒られると泣いて帰ってしまう」  
ポイント：成功体験だけでは大変  
・・・「失敗」に対する不安感、ストレスへの対応に不慣れ、対応力不足



## ～授業づくりへのアドバイス～

- ・学校と社会との違いを伝えることも方法の一つ。卒業したら想定外のことばかり！
- ・“あえて”失敗させることで、「失敗力」をつける経験も必要。（もちろん失敗の先にある成功体験が大切）
- ・失敗や叱られた状況だけを印象に残さない。叱られた出来事だけを大げさに受け取らず、反省して、次にどうするのか考えられるように（失敗から学ぶ）。
- ・失敗した時に、どんな方法で気持ちを切り替え、立て直すか。（リカバリーする力）
- ・自分のできることだけでなく、できないことや苦手なことを知っておく。

## ～授業参観で見ているポイント～

- ・しっかり準備してきっちり授業が進んでいく授業を見る機会が多いが、想定外のこと起きた時にどう対処するのか（生徒も、先生も）を、実は見えています。  
・・・先生たちも対応力を高めていかないと、...

★授業づくりをする上で、「子供ができる状況づくり」は大事な支援の一つです。当日お二人から繰り返されたことは、「想定外」「失敗力」「社会との違い」という言葉でした。「変化する状況に子供が対処できる（教師の）状況づくり」に必要性を強く感じました。今回の意見を参考に、高→中→小で目指す姿、付けたい力を再確認しましょう！